

令和3年度大阪府福祉基金地域福祉振興助成金地域福祉推進助成「事業評価」(事業概要)

団体名	公益社団法人認知症の人と家族の会大阪府支部	総合評価 A	評価基準(総合評価) S (非常に高く評価できるもの) A (高く評価できるもの) B (一定の水準にあるが一部課題のあるもの) C (一定の水準にあるがかなり課題のあるもの) D (全般的に多く課題のあるもの)
事業名	認知症移動支援ボランティア育成事業		
実施期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日		
助成(実績)額	3,917,681円		

事業概要	事業実績	事業を実施したことによる成果
<p>(1) 目的 本事業は、外出に不安と困難を抱えている大阪府内に居住する認知症の当事者とその家族に対して、外出のサポートを通して社会的活動への参画を促し、いきいきとした生活ができるように活動するボランティアを育成し、出会いを生み出し、ともに支え合い安心して暮らしていける地域共生社会の実現をめざして取り組んだ。</p> <p>(2) 背景 認知症当事者が人生をあきらめず、行きたいところに行き、したいことをし、活動できることが、いかに認知症の進行を予防し、その後の人生を生き生きとしたものにできるかは明らかである。さらに、認知症当事者の希望する外出にあわせた移動支援制度があれば、若年性認知症の人であれば就労を継続でき、家族は介護離職も回避できる。しかしながら、介護保険にはその支援が認められておらず、自宅に閉じこもることを強いられている。 この事業は、社会活動を諦めている認知症の人と家族に、社会参加による精神衛生と自立の機会を提供するものであり、介護保険利用額を軽くする試みでもある。</p> <p>(3) 事業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 認知症移動支援ボランティア育成講座の周知と参加者の募集 ② 認知症移動支援ボランティア育成講座のカリキュラムの策定と講師の選定 ③ 講座の開催 ④ 講座受講後の実習の実施 ⑤ 実習報告会の開催 ⑥ 移動支援ボランティアのマッチング ⑦ ボランティアの交通費の支給 ⑧ 講座の動画とテキストの作成 	<ol style="list-style-type: none"> ① 認知症移動支援ボランティア育成講座の周知と参加者の募集 講座開催のチラシを様々な機会を通して広く府民に配布し、認知症の移動支援の必要性に気づいてもらうよう働きかけを行った。また、社協、地域包括、ボランティアセンター、高校、大学、介護看護学科の専門学校等413か所に配布した。 ② 移動支援ボランティア育成講座のカリキュラムの策定と講師の選定 2日間の講座の講師陣に、福祉、介護、教育、文化等各方面から専門家を揃えた。単に移動支援の技術論に終わることなく、認知症の病気の理解や、コミュニケーションなど認知症の人に寄り添うことの重要性を伝えることに努めた。 ③ 講座の開催 9月25日26日の二日間講座を開催した。参加者の感想は満足できる内容が多かった。参加者は大阪府にとどまらず近畿圏、愛知県、東京都等からの参加もあり、また、大学生から70代まで多様で、職種も看護師、介護士、社会福祉士から企業従事者、公務員と幅広く、身近に認知症の人がいる方も含め、意欲が感じられた。しかし、コロナ禍の中、講座参加申込者は52名にとどまり、対面をためらう希望者にはオンライン受講を可能にした。 ④ 講座受講後の実習の実施 家族の会が毎月続けている家族のつどい等、延べ13回の出会いの場を開催し、実習として参加してもらった。認知症の当事者と家族と出会い、関係性を構築することで、実際の移動支援ボランティアの活動につなげた。 ⑤ 実習報告会の開催 受講者が実習の感想等を報告し、講座受講者46名、後日動画受講者3名、計49名がボランティア登録した。 ⑥ 移動支援ボランティアのマッチング 認知症当事者及び家族とボランティアをマッチングするアプリを利用することで、速やかなマッチングを可能とする環境が整ったものの、コロナ禍の外出自粛、対面自粛等により、登録ボランティアが認知症の当事者と外出支援を実施したのは、延べ29回に留まった。 ⑦ ボランティアの交通費の支給 延べ29回のボランティア活動に48,200円の交通費を支弁した。 ⑧ 講座の動画のアップとテキストの作成 9月の2日間の講座の動画をホームページにアップし、テキス 	<p>認知症と診断され、外出しづらくなっている認知症の本人や家族にとって、認知症移動支援ボランティア育成事業は、外出意欲の回復が期待されるものである。実際、認知症と診断され、活動が制限され、家の中に閉じこもる生活を余儀なくされ、一時は生きる望みを失いかけていた方から、ボランティアの同行によって安心して外出することができるようになったとの感想もいただいている。 また、認知症の当事者及び家族の外出に同行したボランティア自身も、同行した認知症の当事者や家族が得ている喜びを目の当たりにし、大きな感動を受けることができた。 活動を通じ喜びを得たボランティアは、不安から活動をためらうボランティアに影響を与え、活動の輪が広がりつつある。 この事業の拡大は多くの認知症家族を救うと同時に、ボランティア自身の福祉意識を向上させ、自身の成熟に寄与するものである。 この事業により、ボランティアも本人も家族も大いに喜びにあふれた感想を持ち帰り、地域の中で当たり前前の友人のように付き合い、支えあうことができるまちづくりの第一歩を踏み出すことができたことは大きな成果である。 コロナ禍の中で、育成したボランティアの数も、実際に活動した件数も少ない状況ではあったが、講座の中で認知症の人を理解し寄り添うことを学び、実習の中で実際に当事者の方と触れ合い、関係性を構築することで、お互いに安心して同行することができることが明らかになった。単に場所を移動する支援ではない、人の人との付き合いの中で共に支えあうことの大切さを知ることができた。 今後も、認知症の人の移動支援の活動が広まるよう、啓発活動や講座の開催を継続するとともに、認知症当事者の活動の場を作り、活動をサポートすることで、地域の中で交流を促しながら触れ合い、支えあう文化を醸成させていきたいと考える。</p>

ト 300 冊を作成して関係機関に配布し、認知症移動支援ボランティア活動の啓発に努めた。

※写真の挿入も可能です。(1～2枚程度)